

# 京都女子大学短期大学部司書教諭（養成）課程20年史

—1992（平成4）年度～2013（平成25）年度—

山 中 康 行

## はじめに

京都女子大学短期大学部は1950(昭和25)年に創設され、2013年3月をもって閉校になった。ここでは、第一部で司書教諭制度の概略について述べ、第二部で、京都女子大学短期大学部司書教諭養成について、学校図書館学講座と名称を変更した節目の1992(平成4)年4月からの20年間の司書教諭課程の実態をまとめ、司書教諭養成に果たした役割について考察する。なお、学校図書館法が成立した翌年の1954年、京都女子大学は京都市と共催で司書教諭講習を開催している。

## 第一部 司書教諭制度の概略

学校図書館法第5条に、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない。司書教諭は、教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。」と定められている。

司書教諭資格とは、「学校図書館司書教諭講習規程 第三条」による科目（5科目10単位）を履修した教員で、任命権者によって司書教諭として発令を受けた教員のこと。」で職務には、各種の図書館サービスを中心とした学校図書館の運営と、これを基礎に児童生徒及び教員一人一人の授業学習課程で発生する多種多様な資料や情報要求に応えることによって、教育と学習活動を支援することが含まれる（注1）。この規定をうけ、学校図書館司書教諭講習規程（省令）で、講習受講資格、履修すべき科目・単位を定めている（注2）。

### 1. 学校図書館法

1953（昭和28）年 「学校図書館法」制定 法律第八十五号（最近改正 2001（平成13）年3月30日 法律第九号）

（学校図書館の定義）

第二条 「学校図書館」とは、小学校、中学校、高等学校において、図書、視聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、整理し、及び保管し、これを児童生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備をいう。

(司書教諭の定義)

第五条 第一項 学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない。

第二項 前項の司書教諭は、教諭をもって充てる。この場合において、当該教諭は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。

第三項 前項に規定する司書教諭の講習は、大学その他の教育機関が文部科学大臣の委嘱を受けて行う。

2. 学校図書館司書教諭講習規程 1954 (昭和29) 年 8 月 6 日 文部省令第21号

最近改正 2000 (平成12) 年10月31日文部省令第53号

この規程で「学校図書館法第5条規定する司書教諭講習について、受講資格、履修すべき科目及び単位、単位計算の基準、単位取得の認定、修了証書の授与等について規定している。

(受講資格)

第二条 講習を受けることができる者は、教育職員免許法に定める小学校、中学校、高等学校 (一部主略) の教諭の免許状を有する者又は大学に二年以上在学した学生で62単位以上を修得した者とする。

(履修すべき科目および単位)

第三条 司書教諭の資格を得ようとする者は、講習において、次ぎの表の上欄に掲げる科目について、それぞれ、下欄に掲げる数の単位を修得しなければならない。(表1)

表1 制定時の科目名と単位数 (7科目8単位)

科 目 名	単位数
学校図書館通論	1
学校図書館の管理と運用	1
図書の選択	1
図書の整理	2
図書以外の資料の利用	1
児童生徒の読書活動	1
学校図書館の利用指導	1
合 計	8

1998年文部省は「学校図書館法」の改正 (1997年) を受けて、「学校図書館司書教諭講習規程」を改正し、履修すべき科目及び単位 (5科目10単位) を改めた。(表2)

表2 1998年学校図書館司書教諭講習規程改正による履修すべき科目名と単位数。（5科目10単位。）

科 目 名	単位数
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2
合 計	10

## 第二部 京都女子大学短期大学部司書教諭資格の養成

京都女子大学図書館学講座（司書教諭課程）は、1954（昭和29）年10月に設置され、1992（平成4）年4月に学校図書館学講座と名称を変更している。同年に図書館司書課程も開講されている（注3）。この間の学科・専攻変遷は資料1の通りである。

### 短期大学の講義

司書教諭課程を履修する短期大学生は、大学学部学生と合同で受講した。司書教諭資格は、教諭の資格を取得することが前提となるので、2年間の就学期間で、この両資格を取得することは、かなりの負担であった。学部の授業と重複しないように、授業時限は、主として5時限（16：40～18：00）、6時限（18：10～19：40）に設定された。1992年度の省令科目名・単位数と本学の開講科目・単位数を表3で示した。本学の特徴は、省令科目「図書の整理（2単位）」を「資料目録法演習（1単位）」と「資料分類法演習（1単位）」に分離し、科目名を履修者に内容をわかりやすい科目名称に変更している（表3）。

表3 1992年度の省令科目名・単位数（7科目8単位）と本学の開講科目名・単位数

省 令 科 目 名	単位数	本 学 対 応 科 目 名	単位数
学校図書館通論	1	学校図書館通論	1
学校図書館の管理と運用	1	図書館通論・図書館活動図書館活動	1
図書の選択	1	図書館資料論	1
図書の整理	2	資料目録法演習	1
		資料分類法演習	1
図書以外の資料の利用	1	図書館資料論	1
児童生徒の読書活動	1	図書館通論・図書館活動	1
学校図書館の利用指導	1	学校図書館の利用指導	1
合 計	8	合 計	8

1998年学校司書教諭改正による省令科目名・単位数と本学の開講科目名・単位数は次の通りである(表4)。

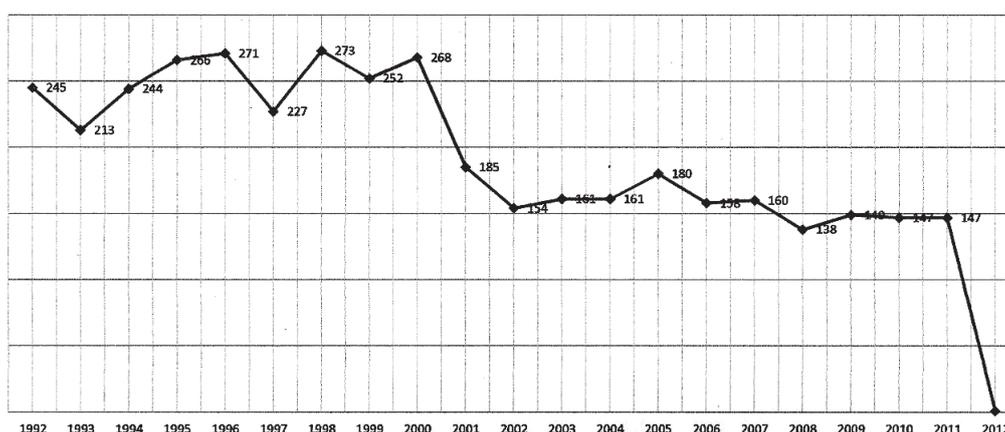
表4 1998年学校司書教諭改正による省令科目名・単位数と本学の開講科目名・単位数

省令科目名	単位数	本学対応科目名	単位数
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2
合計	10	合計	10

### 1. 教員免許資格取得者数経年20年間の動向

司書教諭資格は、教員免許状を取得することが前提である。1992年度から2012年度の教員免許状取得合計4,000人の年度別教員免許取得者数は表5の通りである。2001年度は激減しているが、定員数の減少、専攻・コースの廃止による影響である。短期大学の定員が1999年度に大幅に削減されことによる。比例するように教員免許状取得者数も、2001年度には、前年の268名から185名に減数している。

表5 教員免許取得者数 1992(平成4)年度～2012(平成24)年度



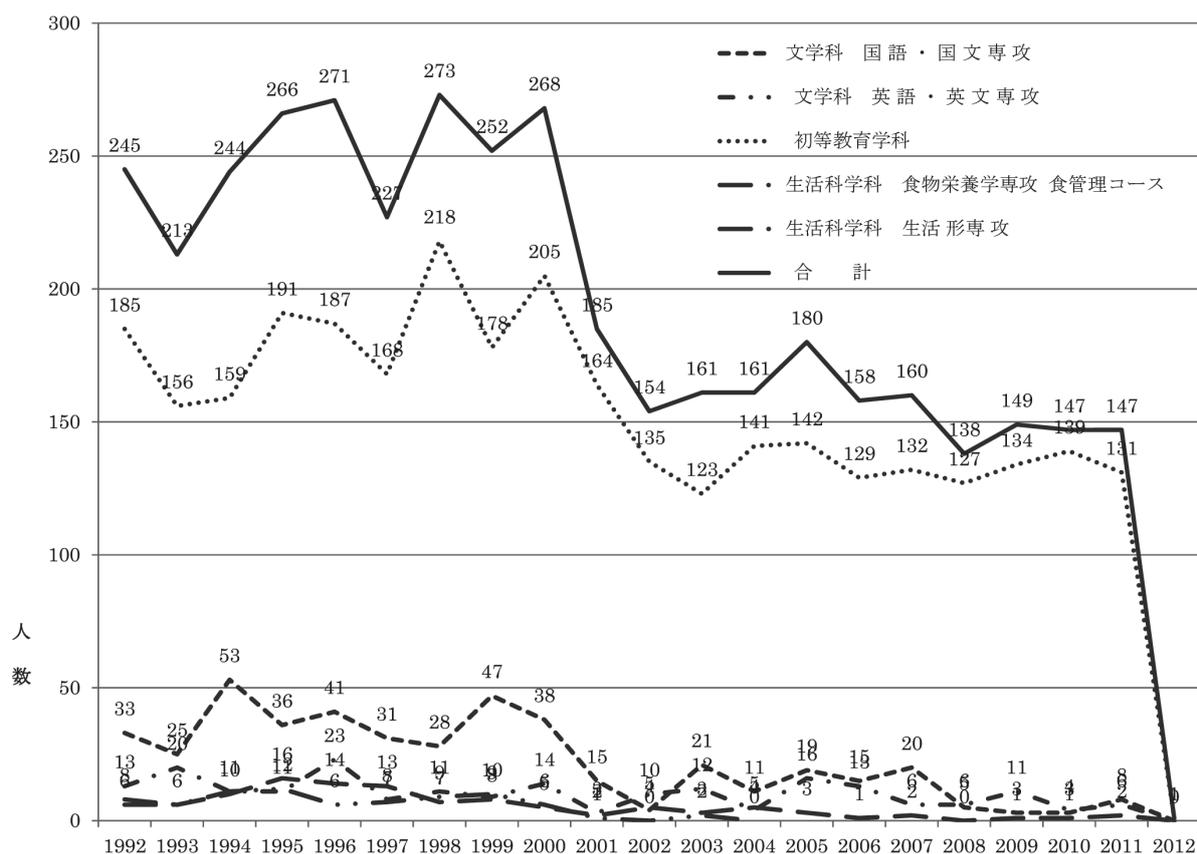
専攻別の内訳(1992年度から2012年度の教員免許状取得合計4,000人)を表6で示した。学科専攻別の比較では、初等教育学科 3,145名 78.6%、次いで文学科国語・国文が 456名 11.4%、文学科英語・英文 211名 5.3%、生活科学科生活造形 112名 2.8%、生活科学科食物栄養専攻 76名 1.9%であり、初等教育学科の学生の教員免許状取得数が他の学科を凌駕している。なお、各学科・専攻において所要資格を得ることのできる教職員免許状の種類及び教科は次の通りである(表7)。

表7 各学科・専攻において得ることのできる教育職員免許状の種類及び教科

学 科	専 攻	種 類	教 科
文学科	国語・国文専攻	中学校教諭二種免許状	国語
	英語・英文専攻	中学校教諭二種免許状	外国語「英語」
初等教育学科		小学校教諭二種免許状	
		幼稚園教諭二種免許状	
生活造形学科	食物栄養学専攻	中学校教諭二種免許状	家庭
	生活造形専攻	中学校教諭二種免許状	家庭

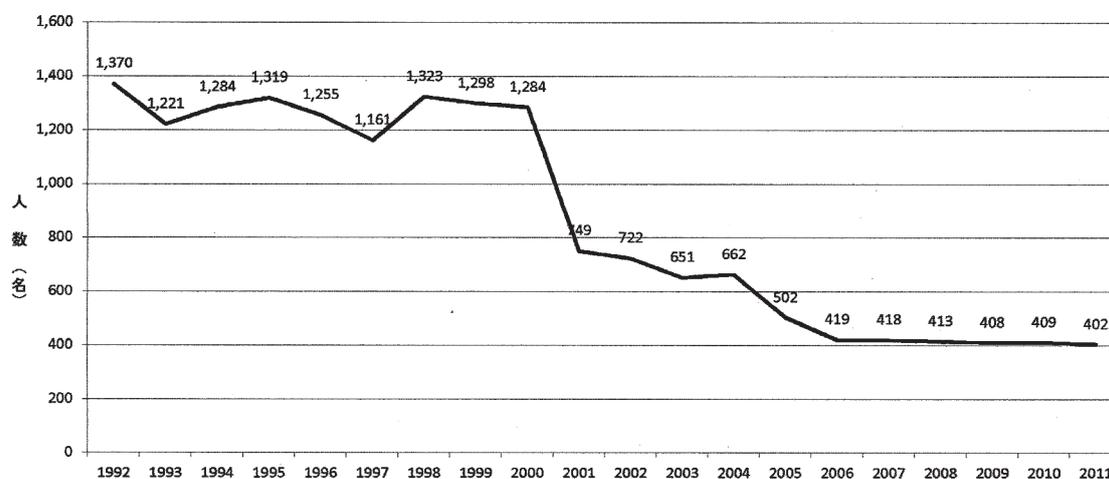
表6 教員免許取得者数 1992（平成4）年度～2012（平成24）年度

学部・学科・専攻（西暦）		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
短	文学科 国語・国文専攻	33	25	53	36	41	31	28	47	38	15	4	21	11	19	15	20	5	3	3	8	0	0	456
	文学科 英語・英文専攻	13	20	11	11	23	8	11	9	14	3	10	12	4	16	13	6	6	11	4	6	0	—	211
	初等教育学科	185	156	159	191	187	168	218	178	205	164	135	123	141	142	129	132	127	134	139	131	1	—	3145
大	生活科学科 食物栄養学専攻 食管理コース	6	6	11	12	6	7	9	10	6	1	0	2	0										76
	生活科学科 生活造形専攻	8	6	10	16	14	13	7	8	5	2	5	3	5	3	1	2	0	1	1	2	0	—	112
	合 計	245	213	244	266	271	227	273	252	268	185	154	161	161	180	158	160	138	149	147	147	1	—	4,000



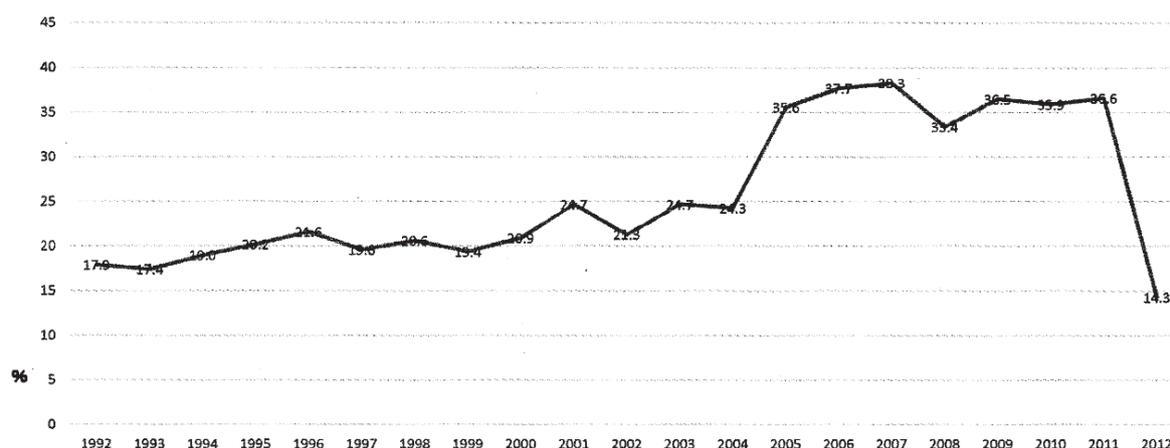
各年度別の卒業生数を表8で示す。定員は1999年度に大幅に削減された(41.7%減)。

表8 卒業生数 (1992年度～2013年度)



つぎに卒業生に占める教員免許状取得者数の比率を表9に示した。1999年度に大幅な定員削減、さらに食物栄養学専攻、生活科学科食物栄養学専攻栄養士コース、同学科食物栄養学専攻、同学科食管理コースが廃止になったことにより卒業生が激減しているが、卒業生に占める教員免許状の取得割合は高率である。2005年度には35.6%になり、2011年まで、33%を超えている。卒業生の1/3以上が教員免許取得教員免許取得者を取得している。食物栄養学専攻、生活科学科食物栄養学専攻栄養士コース、同学科食物栄養学専攻、同学科食管理コースの学生は教員免許取希望者がもともと少なかったことが大きな要因である。

表9 卒業生に占める教員免許状取得者割合 (%)



## 2. 司書教諭資格取得者数経年20年間の動向

20年間の司書教諭資格取得者数を年度ごとに表10で一覧に示す。2000年に26名と最高を示し

ている。2003年度と2005年度は20名、1992年度18名と続く。資格取得者の年度による変化が激しい。原因は不明である。専攻別に示したのが表11である。

表10 司書資格取得者数 年度別 1992（平成4）年度～2013（平成25）年度

		(西暦)																								総計
学部・学科・専攻 (平成)		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013			
短	文学科	9	0	6	5	4	4	7	6	16	5	3	7	5	13	8	13	2	1	1	0	0	0	115		
	英語・英文専攻	0	0	0	1	1	1	1	1	5	0	2	4	0	3	0	0	2	2	0	0	0	0	23		
	初等教育学科	8	0	0	5	2	2	4	0	3	4	4	8	4	4	1	2	1	0	0	2	0	0	54		
大	生活科学科																									0
	食物栄養学専攻																									0
	食物栄養 栄養士コース	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0													1		
	専攻 食管理コース	0	0	0	1	0	2	0	1	2	0													6		
	生活造形専攻	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5		
短大計		18	0	6	12	7	11	12	9	26	9	9	20	9	20	9	15	5	4	1	2	0	0	204		

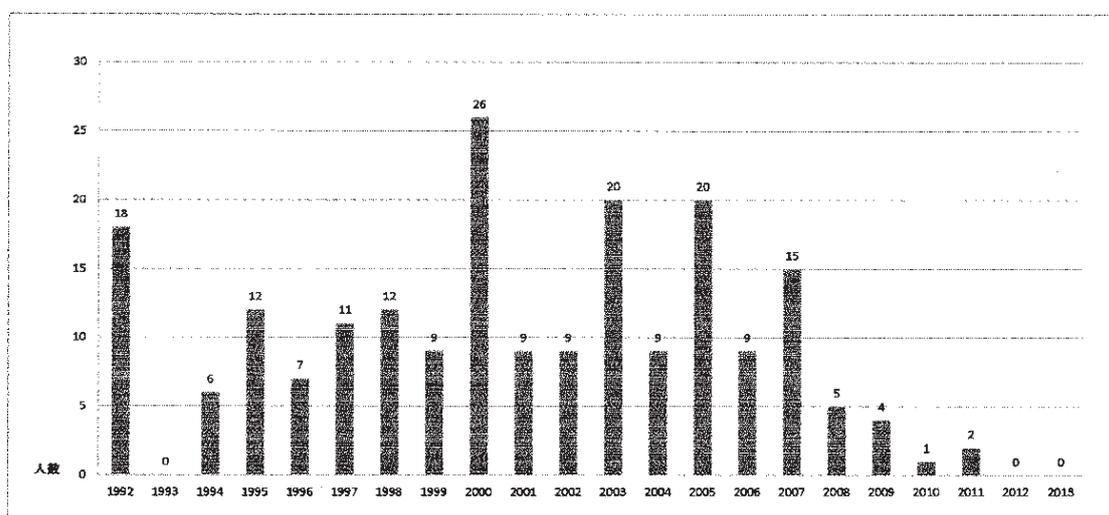
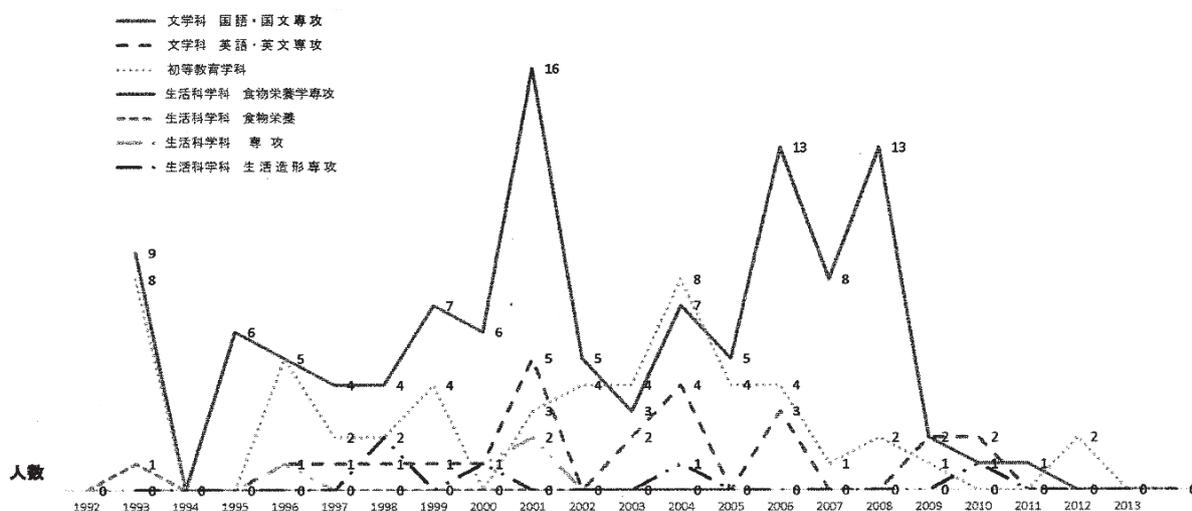


表11 司書教諭資格取得者数 年度別・専攻別



教員免許取得者の内、司書教諭資格を取得した学生の割合を示したのが、表11-1で、専攻別に示したのが表11-2～表11-4である。

表11-1 司書教諭資格取得者割合 (司書教諭資格取得者数/教員免許取得者数) 1992年度～2012年度

		(西暦)																							
学 部 ・ 学 科 ・ 専 攻 (平成)		1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013		
短	文学部	27.2	0	11.3	13.9	9.8	12.9	25.0	12.8	42.1	33.3	75.0	33.3	45.5	68.4	53.3	65.0	40.0	33.3	33.3	0	0	0		
	国語・国文専攻	27.2	0	11.3	13.9	9.8	12.9	25.0	12.8	42.1	33.3	75.0	33.3	45.5	68.4	53.3	65.0	40.0	33.3	33.3	0	0	0		
	英語・英文専攻	0	0	0	9.0	4.3	12.5	9.1	11.1	35.7	0	20.0	33.3	0	18.8	0	0	33.3	18.2	0	0	0	-		
	初等教育学科	0.4	0	0	2.6	1.1	1.2	1.8	0.0	1.5	2.4	3.0	6.5	7.8	2.8	0.8	1.5	0.8	0	0	1.5	0	-		
大	生活科学科	食物栄養学専攻										0	0	0	0										
		食物栄養 栄養士コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
		専攻 食管理コース	16.7	0	0	7.1	0	28.6	0	10.0	33.3	0													
		生活造形専攻	0	0	0	0	0	15.4	0	12.5	0	0	0.0	33.3	0	0	0	0	0	100	0	0	0	-	
短大計			0	2.6	4.5	2.6	4.8	4.4	3.6	9.7	4.9	5.8	12.4	5.6	11.1	5.7	9.4	3.6	2.7	0.7	1.4	0	0		

文学部 国語・国文専攻の学生では、1992年度から2011年度平均して毎年度、教員免許資格取得者の25.2%が司書教諭の資格を取得している。2002年度には、教員免許資格取得者の75%が司書教諭の資格を取得している。2005年度も68.4%と高率を示している。年度ごとの増減が著しい (表11-2)。

表11-2 司書教諭資格取得割合 司書教諭資格取得者数/教員免許資格取得者数  
文学部 国語・国文専攻 1992年度～2012年度

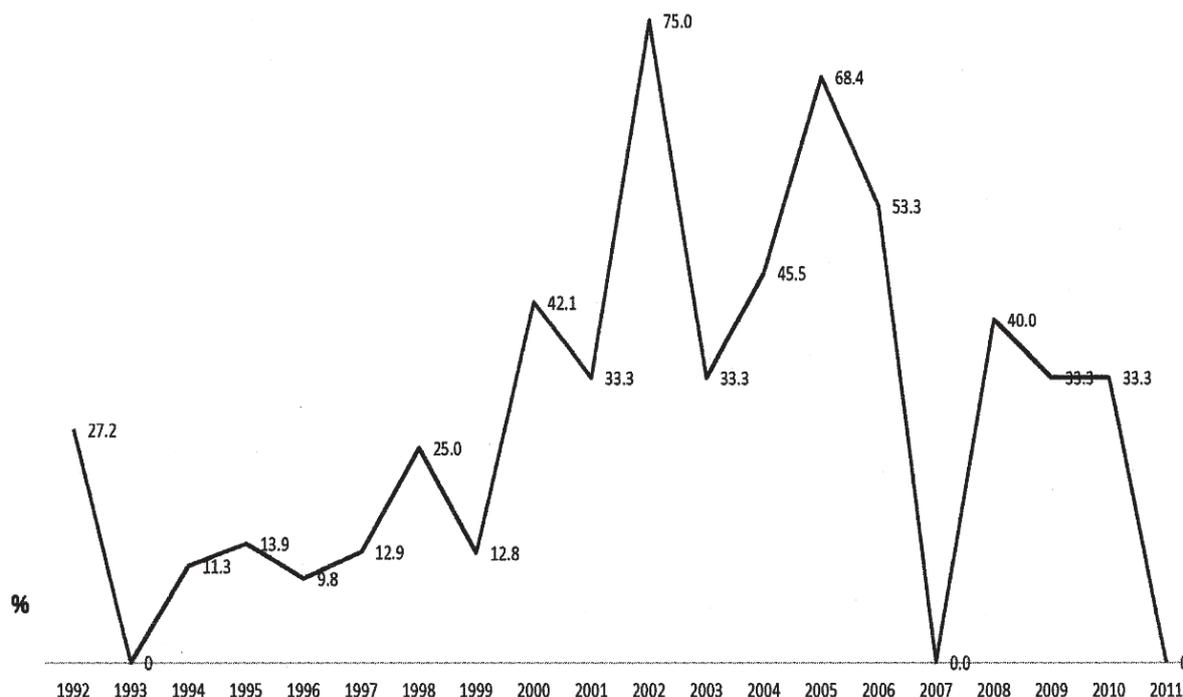


表11-3は学科英語・英文専攻学生の経年変化である。2000年度35.7%、2003年度と2008年度はともに33.3%であり、卒業生の1/3が司書教諭資格を取得している。英語・英文学科においても、年度による増減が激しい（表11-3）。

表11-3 司書教諭資格取得割合 司書教諭資格取得者数/教員免許資格取得者数  
英語・英文 1992年度～2011年度

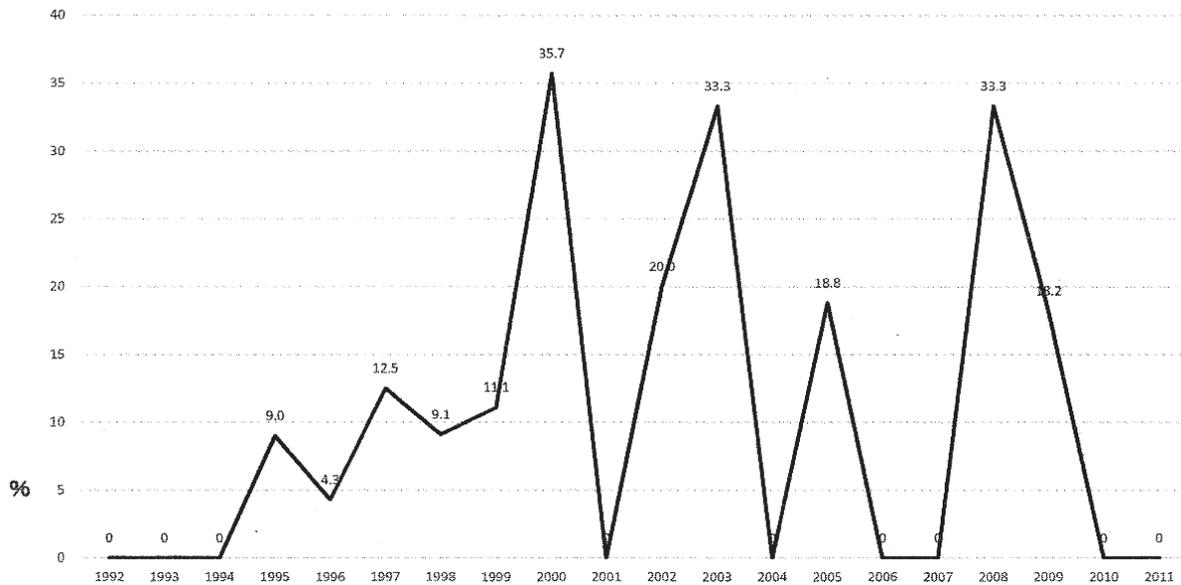
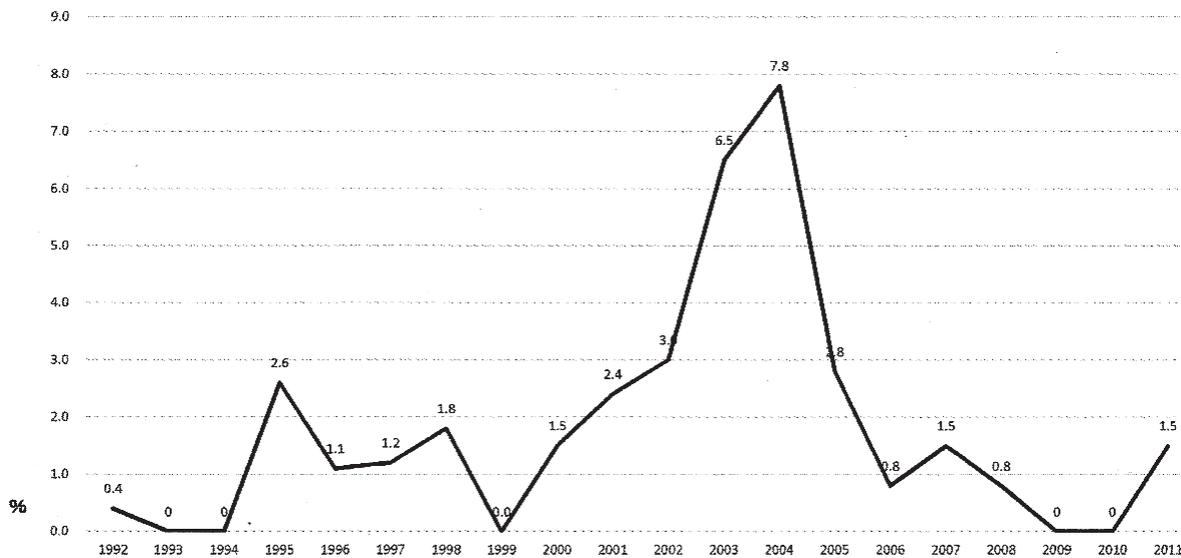


表11-4は初等教育学科の経年変化の表である。2004年度7.8%、2003年度に6.5%である。2004年度が突出して高率である。理由は不明である。全体として低率である。

表11-4 司書教諭資格取得割合 司書教諭資格取得者数/教員免許資格取得者数  
初等教育学科 1992年度～2011年度



3. 教員免許状取得者に占める司書教諭資格取得者数経年20年間の動向

1992年度から2011年度間の卒業生数、教員免許取得者数、司書教諭資格取得者数、卒業生に対する教員免許取得者割合、同司書教諭資格取得者割合、教員免許取得と司書教諭資格取得のダブルスキルを取得した割合を示したのが表12である。

表12 司書教諭資格取得者数等 総表 (1992年度～2011年度)

学 科・専 攻		卒業生数 a	教員免許 取得者数 b	司書教諭資格 取得者数 c	b/a 注 1	c/a 注 2	c/b 注 3		
短	文学科								
	国語・国文専攻	3,544	456	115	12.9	3.2	25.2		
	英語・英文専攻	3,594	211	23	5.9	0.6	10.9		
	初等教育学科	3,502	3,144	54	89.8	1.5	1.7		
大	生活科学科	食物栄養学専攻	497	-	-	-	-	-	
		食物栄養 専攻	栄養士コース	1,238		1		0.1	
			食管理コース	1,180	76	6	6.4	0.5	7.9
		生活造形専攻	3,715	112	5	3	0.1	4.5	
合 計		17,270	4,000	204	23.2	1.2	5.1		

注1 卒業者に占める教員免許取得者割合

注2 卒業者に占める司書教諭必要単位取得者数

注3 教員免許取得者数に占める司書教諭必要単位取得者割合

表12-1 司書教諭資格取得者数 専攻別 1992年度～2012年度

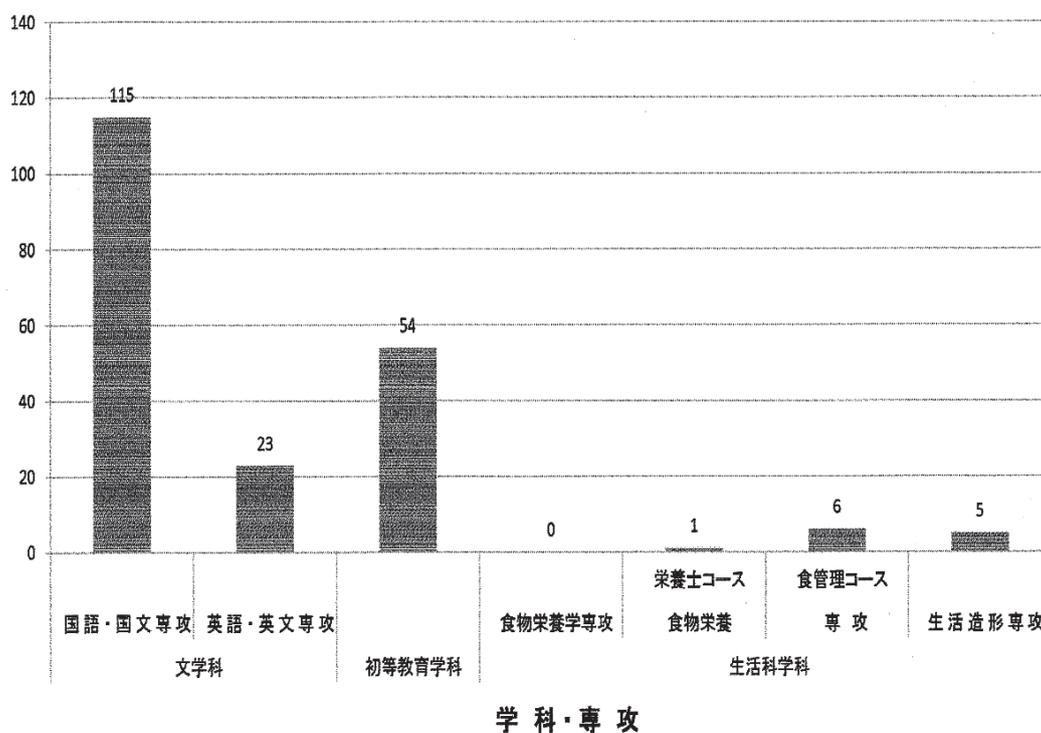
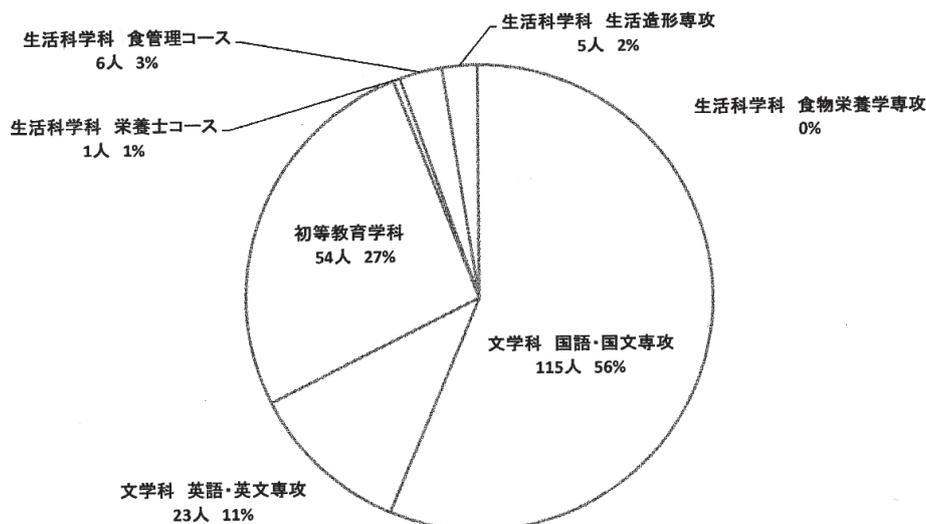


表12-2 司書教諭資格取得者数 専攻別割合 1992年度～2011年度



短期大学の卒業生17,270名のうち、23.2% 4,000人が教諭免許状を取得しており、そのうちの5.1% 204名が司書教諭の資格を取得している。専攻による差が多きい。文学部国語・国文専攻の学生が突出しており12.9%が教員免許を取得し、教員免許取得者の1/4 25.2%が司書教諭の資格を取得している。教員免許状の資格が「国語」ということ、同じ文学部での英語・英文専攻では、10.9%と国語・国文専攻の学生と比較すると半分以下の43.3%である。読書に関心の強い学生が多いこともこの特徴を示す要因と推測できる。初等教育学科の司書教諭資格取得者割合は1.7%と非常に低い。小学校の教育こそ司書教諭の重要であることの認識が薄いのか、ガイダンスが不備なため関心が低いのか、さらには、履修科目が多いため習得が困難なのか、取得する教員免許状の差、中学校免許状と小学校の免許状の相違に原因があるのか複数推測される。文学部国語国文専攻の学生の、その25.2%が司書教諭の資格を習得している。国語専攻する学生には、本に関心の深い学生が多いことも高率の一要因か？ 文学部英語・英文専攻の学生の5.9%が教員免許を取得し、その10.9%が司書教諭の資格を取得している。初等教育学科の学生は、89.8%の学生が教員免許を取得しているのに、司書教諭の資格取得は1.7%で非常に低い率である。これに反し、中学校教諭二種免許状「教科 家庭」を取得している、生活科学科食物栄養専攻食管理コースの7.9%、生活造形学科の学生の司書教諭資格取得率が4.5%である。初等教育学科の学生は小学校の教諭を目指している。小学校の学校図書館でも司書教諭の役割が重要であることは熟知していると思われるが、短大という制約2年間で教員資格と司書教諭両資格を習得するのはかなりハードであること、授業時間が5・6時限に集中しているため、6時限終了の19:40では、近隣の通学でもかなりハードであったことも低い理由として考えられる。1992（平成4）年度から2011（平成23）年度の20年間の卒業生数、教員免許取得者数、司書教諭資格取得者数および、卒業者に占める教員免許取得者割合、卒業者に占める司書教諭資格取得者割合、教員免許取得者で司書教諭資格取得者割合を示したのが表12である。国語・国文専攻の学生では、教員免許取得者の1/4強が司書教諭の資格を取得

している。これに反して、初等教育学科専攻では、教員免許取得者の1.7%しか司書教諭資格を取得していない。初等教育こそ司書教諭の重要性が高いのであるが、学生に情報が届いていないのか、他の理由によるのか詳らかではない。

### おわりに

司書教諭配置の猶予規程は条件付きながら法制定時1953年から44年経過して附則第2号が削除された。このことにより、司書教諭の資格者の需要が増加したが、受講生の履修状況には変化は見られない。受講動機となるのは、数年後とも推測されるが、明確な結果は現れていない。司書教諭資格の受講動機の調査結果では、①短大でも4年生と同一の資格を習得できる ②アカデミックなネーム ③国家資格 ④一生もの(教諭資格のように期限がない) ⑤他の資格に比べ取得しやすい(手軽に取得できる)短大生でも取得できる手軽な資格として、履修している学生が大半であり、図書(本)が好きだという学生はあまり多くはなかった。学生の中には、司書教諭の有資格者であれば、教員採用試験に有利になるのではとの希望的な動機で受講している学生もかなり多くみられた。文学科英語・英文専攻の学生は、専門知識を生かし就職に有利な英検などの資格を優先して取得する傾向がみられる。

### あとがき：京都女子大学と司書教諭講習

京都市が行った学校図書館事業の一翼を担い、本学が司書教諭の育成に重要な関わり合いをもったことをここに記載する。文部省は1954(昭和29)年学校図書館館司書教諭講習会規程を交付し、8月には、東京学芸大学、大阪学芸大学、に委嘱して、それぞれ300名ずつ、計600名を対象に講習を実施している。一方、京都市は司書教諭の役割を「学校の重い任務を遂行する司書教諭は、教員としての豊かな教養の上に、図書館学に関する専門的知識と深い経験を持たなければならない。」と捉え、京都女子大学と共催の公開講座の講習会を開催した。講座は現職教員を対象としたので夜間に行われた。

表13 昭和29（1954）年度開催講座内容

期別	科 目		講 師
第一期 自十月至十二月	学校図書館通論		京都市教育委員会指導主事 松本 茂 女子大学講師
	学校図書館の利用指導		同 松本 茂 京都市立修徳小学校長 女子大学講師
	児童に対する図書館奉仕	児童生徒の読書活動	同 井ノ内竜三 女子大学助教授 塚田満江 同 羽溪四明
	図書館実務	学校図書館の管理と運用	女子大学図書館主任 高田久彦 同学助教授 同志社大学図書館総務 梅花女子大学講師
	図書館運用法		多田 光
	図書選択法	図書の選択	京都市教育委員会指導委員 竹林熊彦 女子大学講師 松本 茂 女子大学講師 中川正文
	視聴覚資料	図書以外の資料の利用	女子大学助教授 天理大学教授 山田正雄 同志社大学図書館主任 同 小野別秋 同学講師
	図書分類法	図書の整理	
	図書目録法		
第二期 自一月至三月	図書館通論		京都大学図書館事務長 小倉親雄 同学講師
	図書館史		女子大学講師 竹林熊彦
	レファレンス・ワーク		京都学芸大学図書館事務長 大佐三四五 同学講師
	図書館の対外活動		京都府立図書館長 西村精一 京都大学講師
	学校教育と公共図書館		女子大学講師 松本 茂
	社会教育		女子大学講師 藤田義憲
	ジャーナリズム		女子大学講師 出雲路豊和

昭和29年（1954）度の講習会は第一期、10月から12月、第二期1月から3月に開催された。昭和30（1955）年度は第一期4月から7月、第二期を9月から12月に、前年度と同じ科目を同一の講師陣で行われ、司書教諭の資格条件を満たしたものが約300名であった。

資料 京都女子大学短期大学部 学部・学科変遷 1992（平成4）年度～2013（平成25）年度

(西暦)			(平成)																						
			1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
短	文学科	国語・国文専攻	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		英語・英文専攻	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	初等教育学科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大	生活科学科	食物栄養専攻（注）																							
		専攻	食物栄養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○											
			食管理コース	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												
		生活造形専攻		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注

- 1 日本図書館情報学会 用語辞典編集委員会編 図書館情報学用語辞典 第2版 2001 87p
- 2 全国学校図書館協議会『学校図書館五〇年史』編集委員会編 2001学校図書館史 205p
- 3 日本図書館協会 日本の図書館情報学教育 1995 143p

参考文献

- 学校図書館五十年史
- 学校図書館五十年史年表 全国S L A 2001年
- 学校図書館行政 瀬戸 真
- 現代学校図書館事典 ぎょうせい 1982年
- 日本学校図書館史 全国S L A 1982年